

**特定非営利活動法人ピアサポートセンターひといろの実
平成30年度通常総会資料**

平成30年度通常総会議事次第

平成30年5月27日

つどいの杜まりも

岡山県倉敷市上富井88

1 開 会

2 代表理事挨拶

3 議長選出

4 議 案

第1号議案 平成29年度事業報告

第2号議案 平成29年度決算報告

第3号議案 監査報告

第4号議案 平成30年度事業計画

第5号議案 平成30年度収支予算

5 質疑応答

6 議案採択

7 議長解任

8 閉 会

事業の成果

I. 法人として

事業開始から3年目を迎えた平成29年度は、グループホームの定員を増やし事業収益の拡大に努めた。また、ピアスタッフも増員し小規模作業所も同じ境遇を持った仲間がつどい、より一層の盛り上がりを見せる。

相談支援事業所では、前年同様、退院促進（地域移行・地域定着）支援を地道に行ってきました。ピアサポート支援事業では、過去2年のニーズに応え、岡山会場だけではなく、高梁・美作といった中山間地域におけるピアサポートの養成を行い、一定の成果を果たした。

各事業における詳しい事業報告は以下のとおりです。

II. 小規模作業所「つどいの杜まりも」に関する報告

平成29年4月1日～平成30年3月31日の1年間、週4日(月・火・木・金10時～16時)の開所としてきた。ペガサスキャンドルの検品作業と日中サロンを主な活動としている。

【キャンドル検品作業】

時給制とし、作業をしてもしなくても自由、利用者の方のペースを大切にしている。毎週火曜日が納品で現在の所納期に間に合わないことはない。検品作業をする利用者の方、しない利用者の方が固定しているのが課題である。

【日中サロン】

「来たときよりも美しく」「いつ来ても、いつ帰っても良い」「自分のことは自分で」の立ち上げ当初からのモットーを大切にし、基本的にセルフサービスで利用して頂いている。利用者とスタッフが一緒になって話し合う「まりもピーパーティ」を月1回開催し、イベントの企画や「こんなことがあったらしいな！」を話し合っている。イベントとしては、バーベキュー・お花見・タコ焼きパーティー・誕生会…等盛りだくさんで実施している。また利用者主体で「オムライス」「お好み焼き」を作って食べる日もある。

利用者だけでなく、関係機関の方・学生にも好評で、まりものサロンは近隣の精神科病院の長期入院者・退院者・地域で暮らす当事者の方の「ほっとして落ち着ける」憩いの場、交流の場となっている。特に長期入院者の退院に向け一歩踏み出す重要な場所として“まりもサロン”は存在している。

まりもを利用しながら、就労継続支援事業所(A型・B型)・一般就労へ参立っていく利用者の方もおられるが、数少ないのが課題である。

【利用状況】

スタッフを去年の10月から2人増やすことにより、利用者の方は徐々に増え、1日10人以上の方々に利用して頂いたものの、一般就労・A型事業所利用者・入院者の方などは利用登録者として算定出来ず、純粋な利用登録者の通所者数は平均8.5人となっている。

A・B型事業所に通所していて事業所に馴染めない方、自宅に居づらい方、長期入院者の方、退院して地域で暮らしている方…等現在でも様々な方が入れ替わり来られている。

III. 相談支援事業所「ゆうはどう」に関する報告

平成28年度の「地域移行」新規契約数12名に比べ、平成29年度の新規数は3名と大きく減少した。しかし、退院者数は、平成28年度退院者数7名に比べ、平成29年度は8名と増加。

その平成28年度7名のうち、単身生活者は1名だったが、平成29年度単身生活者は5名（H30年4月2名含む）と増え、単身生活者をまりもを中心にした支える仕組みができてきた。また、退院者の「計画相談」を継続してゆうはどうが行うことで、「計画相談」の件数は大きく増加、単身生活者への「地域定着支援」も始め、現在定着支援は7名の契約をしている。

IV. グループホーム事業「杜の灯り」に関する報告

平成28年2月より事業を開始し、約2年が経過。平成29年12月に男性1名が単身生活へ移行のため退所。1年に渡り入院となっていた男性入居者においては退院の見込みなく、やむなく退去の手続きとなった。平成30年2月末、新たに1名男性入居者をお迎えし、定員9名中8名（男性6名、女性2名）での運営となった。

V. ピアサポート支援事業

➤ 派遣

前年度に比べ平成29年度は、精神科病院と地域活動支援センターが派遣先として一か所ずつ増えました。これは、当法人のピア派遣の周知の広がりと単発企画に参加した際の効果を評価して頂いたものであると確信している。

ピアソポーターの受け入れの経験が浅い病院に関しては、ピアソポーターが参加する交流会に関し、工夫や話し合いを重ねながら試行錯誤しており、今後の課題として挙げられる。

また、体験発表では、自分の疾病に関する経験を他者に話をして聞いて頂く事の経験が無かった方が初めて挑戦する姿が印象的ではありました。依頼先からは、ただ病の体験を話して欲しいから、このような経験をお持ちのかたに来ていただきたいと言う詳細な要望や体験談が終わった後には、グループワークに参加していただきたいなど具体的な依頼がこの一年間で増えてきました。

この成果をより良いものにする為、ピアソポーターとの出会いがより素晴らしいものにする為にも、依頼先からの要望と派遣するピアソポーターのマッチングを、より丁寧にしていく必要を強く感じさせられた。

➤ 養成

岡山県から委託をうけ、ピアサポート交流研修会を岡山会場で2回、高梁会場で2回、美作会場でリカバリーカレッジを5日間開催した。NPO職員と理事で構成した実行委員会を10回開催し、企画運営をした。

岡山会場では、県内全域を対象に技術的な内容とピアスタッフの就労の状況について講師を招いて開催した。

高梁会場では、地域関係者との企画会議の中で、ピアサポートについて広めたいという声に基づき、参加者と一緒にリカバリーストーリーを作って語り合い、後日リカバリー・ピアサポートの理解を深めた。

美作会場では、希望ヶ丘ホスピタルを中心に美作大学や保健所と協働でリカバリーカレッジみまさかを開講した。企画から運営まで当事者と一緒に行うため、企画会議（糸の会）を結成し開催した。

事業実施の方針

I. 作業所「つどいの杜まりも」に関する計画

国が長期入院者の地域移行に本気になって取り組む方向と舵を切った。

岡山県倉敷市にあるつどいの杜まりもが、作業所としての訓練する場所であるこの他に地域で暮らす精神障がいの方はもちろんのこと、現在、入院の方また、退院の方が安心して過ごせる「居場所・交流の場」として、より良くなれば幸いであり、先進的なサロンのモデルとして位置づけられるような空間を維持していく。

II. 相談支援事業所「ゆうはどう」に関する計画

地域移行契約数は上半期で6名が終結、2名の継続契約の予定。

新規の契約を10名受け入れ、毎月継続的に7名以上の退院支援を進めていく体制を整えていく。計画相談、地域定着は、新規受け入れはせず、現状維持または現状のケースを他事業所に引き継ぎ、規模の縮小を図っていく。

規模縮小することで地域移行の受け入れを積極的に進めていき、ゆうはどうの強みを活かしていく。

III. グループホーム事業「杜の灯り」に関する計画

平成30年3月より1ヶ月体験外泊を行っていた長期入院の男性を今春までに入居いただく予定で、体験外泊を継続して実施。4月1日付で定員の変更申請をし、サテライト（女性1名を予定）を創設の準備も行った。定員増員においては、職員の増員も課題であり、現時点では法人内および協力関係機関の協力を得て、支援にあたっている。

IV. ピアサポート支援事業

派遣事業の受入れ期間が浅い機関の中でも依頼の目的に「傾聴と寄り添いと共感」が共通にあげられています。第三のポジションとしてより1人1人のピアソポーターが派遣の目的をしっかりと踏まえ、ピアサポート活動の振り返りと実践が出来るよう支援する。

V. 法人全体として

倉敷市の就労継続支援A型事業所による大量解雇が最初に発生して早1年が経過しようとしている。今年度、障害者総合支援法の改正の中で「地域移行」に対し福祉給付金の単位を上げている。これは、当法人の相談支援事業所を立ち上げ地道に「ファーストペンギン」となって「長期入院者の退院促進」を丁寧に行ってきたことが認められたことが示されている。

倉敷市の福祉は、先の障害者大量解雇から転換期を迎えており、当法人は変わらず地道に強みを生かした事業を行っており、組織基盤をより強くし今年度さらなる発展を目指し、社会福祉に寄与する。